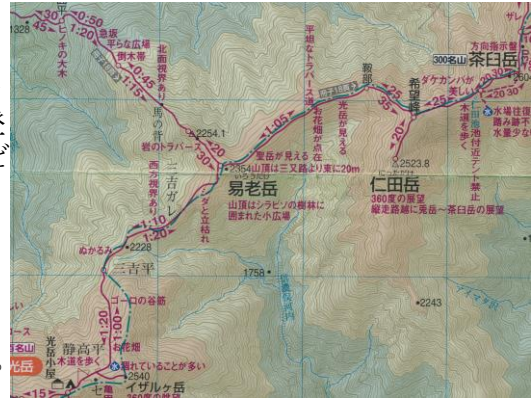


◎山での道迷いについて

山で道迷いになった事はないですか？道標を見落とししたり思い込みで進んでしまったり、原因は色々あると思う。条件によって異なるが、命を落とす危険をはらんでいるので充分注意する事が必要である。特に危険なのが残雪の雪渓に登山道が消えている場合、冬のホワイトアウトになった場合など地図を正確に読んで行動しないと取り返しのつかない事態を引き起こす。思い込みを排し、冷静に時間をかけて山座同定を行い行動を起こすべきである。右は易老岳周辺地図と易老岳付近に立つ道標である。このようなしっかりした道標なら良いが、簡易的な物だと風等により方向がズレたりする場合もある。故意にずらして遭難を誘う山岳小説もある。



易老岳周辺の地図

道標

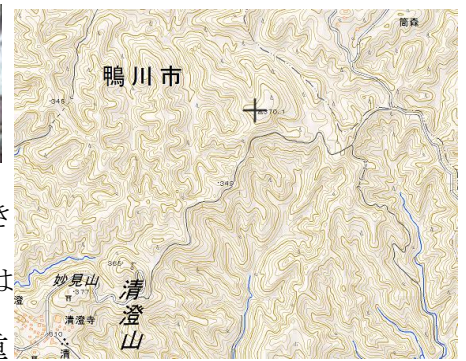
A. 低山での注意事項

① 清澄山遭難事件

2003年11月、中高年30名が千葉県清澄山周辺で遭難した事件を覚えていると思う。翌日全員が下山したが、200名近い捜索隊と3機のヘリが導入された。この辺は登山道と作業道が交錯しており、十分な道標も少ない。これが里山の現状とみてよい。登山者から見れば道に迷って1夜、野営しただけで大きなニュースになるのは心外であつたらう。でも特に大勢を連れて行く場合は里山の現状を踏まえ、下見位はきちんとしておくべきであつたらう。再度書くが、里山は道標が不完全で仕事道も多数あり、下調べを充分しておく必要が有る。その意味からすれば道に迷う確率はアルプス等より多いかもしれない。また共通した対応としては地形図の持参とおかしいと思ったら、深入りせずにおかしいと思った分岐点に引き返し読図を慎重にやるべきである。



里山を甘く見ない

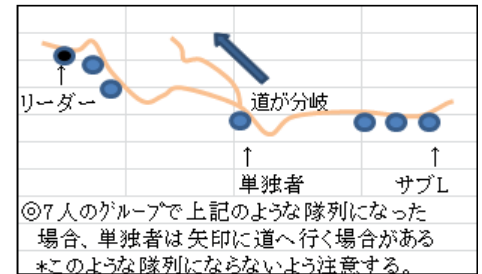


清澄山付近の地形図

B. 中高山での注意事項

① 参加者が多い場合

本豆知識NO31でも触れたが、参加者が10人を超えるような場合で隊が不連続になった時、右図のように道が分岐していると単独者は矢印の方向に進む場合があります。リーダーは常に全体を視野に入れ、確認する事が大切。



② 尾根、谷の進入路に注意

道迷いの多くはこの進入路の選択ミスである。一つ間違えたとんでもない所に出てしまう。このよな分岐では山座同定をしっかりと、読図により確認する事が大事である。ここで時間を惜しまない事。そして若しおかしいと思った時は深入りは絶対しないで分岐点まで戻る事が肝要である。わかっている深い深みにはまり遭難のケースが生ずるのである。

③ 霧等で見晴らしが利かない場合

縦走路がはっきりしている場合を除き、時間に余裕が有ったら小休止して様子を見よう。スマホで地図上のどこの場所にいるか確認できるアプリもあり便利なので使ってみると良い。繰り返すが焦って行動を起こすことが一番危険である。



これが曇ると登山道が不明に

C. 春山での注意点

① 登山道が雪渓に消えている時

春山登山で最も注意を払うべき時である。尾根筋は別として平原や見通しの悪い斜面ではしっかりと読図をして進む事。これを誤ると進む尾根や谷を間違え、取り返しがきかなくなる。

② 雪庇に注意しよう

雪の尾根筋で登山道が不明な場合、雪庇を踏み抜く事故がある。基本は木の生えている脇を歩くことである。また雪庇の崩壊にも注意が必要である。雪渓に亀裂等が生じていたら充分注意して林の中を歩く事が肝要である。

D. 冬山での注意点

① レートの確認

怖いのはひとたび吹雪かれると、トレースが完全に消えてしまう。またホワイトアウトになると全く位置関係がわからない。こんな時は焦らず停滞して天候の回復を待つべきである。勿論予め目印になる赤布が確認できれば行軍はかわない。トレース上に降った雪は周りに比べ柔らかいので、座頭市の如く足で雪の感触を確認しながら下山した記憶もある。もう一つ大切な事は登りの時は合流する尾根があまり気にならないが、下る時は誤り易く注意が必要。

② 雪崩に注意

雪山の鉄則谷筋は避ける事。必要な場合は1人づつ、充分注意して渡る。



視界が利かなくなってきた